

# へきけんニュース

ホームページ [https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)

メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学旭川校

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

## 第73回 全道へき地複式研究大会上川大会 ～ファーストステージ～ 開催

上川大会  
スローガン

「北の大河の源流 上川の地で育つ子らに  
未来を切り拓き 夢を実現する力を」

この研究大会は本学が連携協定を結んでいる全国へき地教育研究連盟主催の全国へき地教育研究大会の地方ブロック大会として、全国へき地教育研究連盟も共催し開催している大会です。

特に北海道ブロック大会は、「同じ参加者が連続して共同研究」を行うことを目指し、「ファーストステージ」「ファイナルステージ」と2年連続同会場で開催するという特色があります。

今回は、道北地区上川管内の連盟が実行委員となり、1日目の全体会を旭川市大雪クリスタルホール、2日目の分科会を上川管内6会場で行われました。



### 開会式前のアトラクション

大会キーワードの一つ「ふるさとへの誇りと愛着」をテーマとした「児童による発表の場」として、上富良野町立東中小学校児童による太鼓の演奏が行われました。



# 上川大会 全体会開会式



井上実行委員長の  
開会宣言



小野田委員長による  
主催者挨拶



柿崎全へき連会長  
による祝辞



今村上川教育局長  
による祝辞

## 大会日程

1日目 18日(水)	
会場 旭川市大雪クリスタルホール	
12:30～ 13:00	受付
13:00～ 13:40	開会式
13:50～ 14:50	基調報告
14:25～ 16:10	分散会
16:20～ 16:35	閉会式
/	
18:30～ 20:00	歓迎交流会

2日目 19日(木)	
各会場校	
8:30～ 9:00	受付
9:00～ 9:45	授業公開①
10:00～ 10:45	授業公開②
11:00～ 12:00	開会式 研究発表
12:00～ 13:00	昼食
13:00～ 15:10	研究協議
15:10～ 15:40	閉会式



▲来賓紹介  
北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター  
玉井康之センター長



▲来賓

▼大会運営者



## 分散会 9月18日(水) 14:25~16:10

テーマごとに3つの会場に分かれて分散会が行われました。

	分散会Ⅰ 【学校・学級経営の深化・充実】	分散会Ⅱ 【学習指導の深化・充実①】	分散会Ⅲ 【学習指導の深化・充実②】
提言者	留萌管内 天塩町立啓徳小学校 川又由妃 教諭	オホーツク管内 紋別市立上渚滑小学校 吉村倭一郎 教諭	胆振管内 伊達市立大滝徳舜警学校 山崎泰博 教頭

## 分科会(各校会場) 9月19日(木) 9:00~15:40

大会2日目は上川管内6会場に分かれて授業公開が行われました。

第1分科会 士別市立上士別小学校	第4分科会 美瑛町立美馬牛小学校
第2分科会 幌加内町立幌加内小学校	第5分科会 富良野市立樹海学校
第3分科会 東川町立東川第二小学校	第6分科会 南富良野町立南富良野小学校



分散会場の様子

グループ討議の様子



提言の様子

分散会発表者への感謝状贈呈



## 分散会・分科会 参加レポート

参加レポート

札幌校 へき地教育アドバイザー

古田 統

### 〔 分散会 〕

大会1日目の後半、分散会が3つの課題に分かれて行われ、川前副センター長、旭川校伊端アドバイザーとともに分散会Ⅲに参加しました。討議の柱は「ICT機器の効果的活用や言語活動を重視した指導方法の改善と充実」で、初めに伊達市立大滝徳舜警学校から提言発表がありました。大滝徳舜警学校の研究成果と課題の中で特に印象に残ったのが①「人や物との対話」を取り入れること、②コミュニケーション力向上のためのICTのツールとしての活用で、成果として①では児童生徒が多様な考えに触れる機会が増え、自分の考えを表現する習慣がついてきた。②ではClassroom、meet、Jamboard、Padletなどの活用によりコミュニケーション活動が充実した。課題として①では対話の時間の十分な保障や対話方法の工夫、②ではデータの蓄積方法や活用方法の最善策の検討、より効果的なICTの活用場面の検討が挙げられていました。

その後のグループ討議では、主に各校の遠隔教育の実例について交流されました。小規模校同士での多様な考えを交流する場としての有効性は認識しているが、機器やノウハウの面でなかなか広がっていかない現状にあるということが挙がっていて、その中から各校の事例を紹介し合うことによって自校での実践につながるような深い話し合いができました。

## 【 分科会 】

第3分科会 東川町立東川第二小学校に参加しました。

東川町は旭岳を有し、水が豊かで米作りが盛んな自然に恵まれた町です。写真甲子園の舞台でもあり、移住者も増え続ける東川町の中心から約5km北東に位置する東川第二小学校は開校124年を迎える児童数38名の複式校です。(1・2年生は単式)

今年度からの研究主題を「主体的に学び、自らの思いや考えを伝えあう子どもの育成～子供が生き生きと学ぶ学習指導をめざして～」とし、教師主導の授業から、より児童が主体的に学ぶ「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりについて研究を進めています。

さらに東川町内には東川第二小学校を含め3校の小規模校があり、これまでも学年ごとに集合学習を行ったり、オンラインで3校合同の理科授業を実施したり、ICTを活用して作品の交流などを行っています。児童の実態や課題に共通点も多いことから今年度は3校の研究主題と内容を統一し、合同研究を実施することとし、これらを通して各学校の実践例や意見交換、授業交流などを行いより効果的な指導方法を研究しています。

当日は3・4年生「算数」(複式授業)と6年「理科」(オンラインによる東川第一、第二、第三小学校合同授業)が公開されました。

算数ではリーダー学習が進められ、児童全員が授業の流れを理解し、自分たちで学習を進める姿が印象的でした。また「振り返り」を重視し、児童自身が「この時間に何を学んだか」をしっかりと見つけ、次時につなげて考える力が身につけているなど感じました。

理科は、自分で見つけた「てこ」の働きを利用した道具を調べ、説明し合う活動でした。

どの学校(学年)も4・5名ほどの児童数のため、オンラインでつなぐことにより、より多くの考えに接し、多様なものの見方・考え方に触れる機会となり、児童も生き生きと学習活動に臨んでいました。集合学習や宿泊的行事等で共に過ごす機会もあるようですが、モニター越しといえどもオンラインで他校の同級生と触れ合うことは進学に向けての不安(中1ギャップ)の解消につながると感じました。

▼分科会開会式



分科会研究発表▲

### 参加レポート

旭川校 へき地教育アドバイザー

伊 端 俊 紀

第6分科会 南富良野小学校に参加しました。

旭川市から車で95km、上川管内の南部に位置する南富良野町幾寅市街地にある全校児童93名の南富良野小学校は、美しい山々と湖に囲まれた自然環境に恵まれた学校です。

令和4年度から研究主題を南富良野小スタンダードにおける集団解決の工夫を通して「深い学びを実現する子どもの育成」としています。その中で集団解決の目的や形態を明確にして授業をつくること、「話し合いのわざ」を活用し児童が話し合う方法を身につけることにより、「協働的な活動を通して、学びを深めようとする子ども」の育成を目指した研究を進めています。

当日は、2年生「算数科」と5年生「算数科」の授業が公開されました。どちらの学年も「話し合いのわざ」を活かし、リーダー学習が進められ、学年の発達段階に応じて、児童が主体的に学習を進めることができるなど高い成果が見られました。また、目的・意図や学習形態・学習手段の明確化により、キーワードを活かして集団解決する姿が見られました。

研究協議では、集団解決する姿や主体的なリーダー学習での成果が評価されました。来年度に向けては、学習リーダーが行っている課題設定やまとめに、もう少し教師が関わり、明確化していく必要性が述べられていました。



第6分科会  
南富良野小学校の様子